

野口レポート

NO. 222

平成27年3月1日

発行:有限会社アルファ野口 〒211-0012

川崎市中原区中丸子 538 ムルベ・ユマルダ 1F

TEL 044-422-1337 FAX 044-455-0208

文責:野口 賢次

ニューヨーク研修の思い出（４）

最近は電車に乗る機会が多くあります。日本でも若者の身長や会話はすでにグローバルスタンダードの感があります。だが、私を含めオジさん達はグローバルではありません。

米国では不動産は金融商品であると位置づけられており、金融ビッグバンに続き不動産ビッグバンでの不動産グローバルスタンダードはもはや避けて通れません。

だが、ハード面のみにとらわれ、ソフトの部分の研究がなされておられません。米国では自分の意思を形で表さなければ相手に通じません。「どうもどうも」と「YES NO」、この文化の違いがビッグバンやグローバルスタンダードの落とし穴にならぬよう気をつけたいところです。

米国はとてつもなく広い国です。おどろくべき穀物の供給力を持ち、言葉はすでに世界を征し（国際語）、次はお金（ドル）？……。

米国は一見バブルのようですが、浮かれることなく賃金の安易な上昇をきちんと押さえ経済のバランスが偏ることを防いでいます。

米国人は合理的で底抜けに明るく見えます。だが「したたかさ」を持っています。米国の「戦略国家」としての根元がここにあるような気がしました。

グローバルスタンダードはアメリカンスタンダードでもあります。
日本がむかえ入れるには米国文化と米国人を理解することが重要で
す。日本流にアレンジし、心して対応すれば沈没しそうな日本経済
の一助になるのではないかと思います。 1998年10月

《追記》

16年前に自分の「目と耳」で、見たまま感じたままの当時の米
国レポートです。しばし相続を離れ一服の清涼剤として発信させて
いただきました。楽しく読んでいただけたなら幸いです。

米国ではお客様の高額財産を扱う不動産業者には高い倫理観が求
められています。不動産業者が一番先に学ぶのは倫理教育です。

この度、宅地建物取引主任者が宅地建物取引士と名称が変わり土
業の仲間入りをします。これを機に倫理の重要性を認識し、米国の
ように倫理教育を優先課題とし、業界全体で取り組むことができた
なら、日本の不動産業界も変わると思います。

また、当時の米国と同じことが今の日本でも起きています。不動
産証券化や定期借家契約は当たり前、空中権売買も珍しくはありま
せん。弁護士業界（就職難）にしてもしかりです。

今の米国では、法律（白黒）や税務（数字）の世界は、人口知能
が人間に取って代わってきています。10年後の日本の姿を知るに
は今の米国を知ることが大切です。

近年、時代の変化がすさまじく、なかなか心がついていきません。
心にも「老眼鏡」をかけ、社会の変化をしっかりと見据え、変化に
応じ転換を図れる体質を作っておきたいものです。 おわり